万年青（おもと）

最近、「有吉園芸」や「変態植物倶楽部」などのテレビ番組でも取り上げられ、注目を集めている万年青専門店「春光園」。潮来市にあるその店では、江戸時代から続く伝統園芸「万年青（おもと）」の歴史や魅力を、江戸時代から続く園芸の継承とともに発信しています。

江戸城本丸完成の祝いとして徳川家康公へ献上されたことをきっかけに、縁起物として広まり、「引っ越し万年青」として新居へ最初に運び入れる風習も生まれました。

そんな伝統園芸「万年青」の魅力を、現代の感性で新たに発信しているのが、万年青専門店「春光園」の酒井宏幸さんです。

伝統園芸を継ぐ

もともとは美容師になりたかったという酒井さん。しかし、「自分が継がなければ、この伝統が途絶えてしまうかもしれない」という思いから家業の道へ進みました。父のもとで植物や園芸について学び続ける中で、万年青を愛好する人が減少している現実を目の当たりにします。

守るだけでは、伝統は続かないのではないか

そう考えた酒井さんは、万年青鉢のデザインに着目しました。昔から万年青鉢には、その時代の文化や風景が描かれてきました。ならば現代の文化も取り入れられるはず。そうして生まれたのが、アメリカのアートカルチャー〝※ピンストライプ〟を取り入れた作品です。

※アメリカのカスタム文化（車やバイクに塗装するなど）から生まれたもので、最大の特徴は、定規や下書きをほとんど使わずに、職人が細長い特殊な筆を使い、フリーハンドで美しい模様を描き上げていく点にあります。

人気植物アガベなど現代の植物カルチャーとも掛け合わせながら、伝統的な手描きの技法で制作。古くから続く園芸文化に、現代アートの感性を融合させました。

最初の展示会では思うような結果にはつながらなかったものの、その独創的な取り組みは少しずつ注目を集めます。動画配信などを通じて話題となり、県内外から訪れる人が増加。テレビ番組で特集されるなど、万年青の新しい魅力を発信する存在となりました。

ハーレダビットソンのイベントに出店した万年青鉢

現在は、「万年青を盆栽に並ぶ日本文化へ」という思いのもと、育成方法の研究や展示会、情報発信など幅広く活動しています。伝統園芸と現代植物を〝別のもの〟ではなく、同じ流れの中にある文化として捉え、新たな価値を生み出そうとしています。

潮来からの挑戦

そして、その挑戦の拠点は潮来です。「何もないように見えて、実は全部あるまち」と語る酒井さん。都心へのアクセスの良さや暮らしやすさ、人とのつながりなど、この地域だからこそできる活動があると感じています。潮来を拠点にしながらも、原宿で展示会を開催するなど、活動のフィールドは全国へと広がっています。都市部へのアクセスの良さを生かし、地域に根差しながら幅広く発信できることも潮来の魅力の一つだといいます。世界を視野に活動を続ける一方で、「潮来に来てもらい、この地域を知ってほしい」という思いも強く持っています。

伝統を受け継ぎながら、時代に合わせて進化させていく。好きなまちを拠点に挑戦を続ける酒井さんの姿は、潮来に新しい彩りを生み出しています。

ご案内

春光園　万年青鉢展開催

日　時　6月27日(土)～7月4日(土)

場　所　水郷旧家　磯山邸（潮来市潮来595）

入場料　無料

Instagram @shunkou_en

写真提供：春光園

万年青専門店「春光園」
酒井 宏幸さん

〈プロフィール〉
さかい　ひろゆきさん（1995年生まれ）
日本おもと協会理事を務めながら、万年青の新たな魅力を発信しています。